

京都市雲ヶ畑地区調査

齊藤 久子

総合地球環境学研究所の実践プロジェクト予備研究（FS）、「ヒト・自然・地域ネットワークの再構築：ナラティブとアクションリサーチをつなぐ数理地理モデリング」（責任者村山聡（香川大学教育学部教授））の調査の一環として雲ヶ畑（京都市北区）調査がおこなわれた。府立大学から東昇を中心に文化情報学実習、文化遺産学講義の受講生および小林啓治・上杉和央・竹中友里代が参加した。

1. 雲ヶ畑文書調査

雲ヶ畑の文書調査は 2016 年 7 月 4 日、9 月 2 日、雲ヶ畑自治会館にて実施した。2 度現場へ行き、調査対象は主に近代文書、近代の旧雲ヶ畑村役場、猟区の文書である。保管場所の近くに川が流れているためか、湿度が高く傷んでいる文書もあった。文書にはラベルを貼るのではなく付箋を挟み、写真撮影ののち中性紙箱へと移し替えた。大学での作業は、写真をもとに仮目録を作成し、本目録作成のための整理をおこなった。

2. 雲ヶ畑ウォーク

同年 10 月 8 日、NPO 法人京都景観フォーラムの活動の一環である賀茂川の源流を歩く自然観察ツアー「鴨川おむすび紀行 VOL4」に参加した。北大路のバス停に集合し、一日 2 本運行している雲ヶ畑コミュニティバスであるもくもく号で雲ヶ畑地区へ向かう。岩屋橋で下車し、足谷の山へ登る。残っているアケビはどれもぼっくり割れていて鳥や虫に食べられている、山椒は真っ赤に熟すという植物の話や、山の手入れが行き届いていないといった林業の現状についてお話をうかがった。下山したのち農家民宿善右衛門さん宅にて昼食および座談会。山の幸を存分に用いた食事をいただいた。様々な地域から様々な人々が 15 名ほど集まっており、雲ヶ畑に魅力を感じる人々が数多くいることを実感した。



写真 1 雲ヶ畑自治会館での文書調査



写真 2 雲ヶ畑ウォーク中に発見したアケビ